

## 令和4年度 第2回浦安市いじめ対策調査委員会 会議録

### 1 開催日時

令和4年10月24日(月) 午後6時00分～

### 2 開催場所

市役所4階会議室S2～4

### 3 出席者

(委員)

川義郎委員長、黒川雅子副委員長、稲見憲子委員、志摩一美委員、高橋教委員  
(教育委員会職員)

鈴木忠吉教育長、醍醐恵二教育次長、丸山恵美子教育総務部部長、  
楨伸一教育総務部次長、宇田川順子教育総務課課長、宇田川知久教育政策課課長、  
阿部健倫保健体育安全課課長、鈴木明美学務課課長、石川三佳指導課課長、  
佐瀬久代教育研究センター所長

(事務局)

鈴木勉主幹、鈴木俊之副主査、矢作雅彦副主査、新井裕子主任主事

### 4 傍聴者

0名

### 5 議題

- (1) 第1回いじめ対策調査委員会会議録(案)について
- (2) 令和3年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果について
- (3) いじめ防止等の取組状況について
- (4) 審議・協議事項(非公開)

### 6 議事の概要

- (1) 第1回いじめ対策調査委員会会議録(案)について  
第1回いじめ対策調査委員会会議録(案)について、事務局から説明した。
- (2) 令和3年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果について  
令和3年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果について、事務局から説明した。
- (3) 令和3年度本市におけるいじめ防止等の取組状況について  
令和3年度本市におけるいじめ防止等の取組状況について、事務局から説明した。
- (4) 審議・協議事項(非公開)
- (5) 諸連絡

### 7 会議経過

議題(1) 第1回いじめ対策調査委員会会議録案について、事務局から説明した。

【委員】会議録案について、何かありますか。

【委員】ないようですので、第1回いじめ対策調査委員会会議録案については確定します。

議題(2) 令和3年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果について、事務局から説明した。

【事務局】例年、10月初旬から中旬にかけて、前年度の問題行動調査結果が公表されるが、今年度は未だ公表されていない状況である。したがって、令和2年度までの国や千葉県との状況とともに、令和3年度の本市の状況について報告させていただく。

【委員】以上の報告に関して何かご質問、ご意見はありますか。

【委員】浦安市のいじめ認知件数が国や他の県と比べても高いということは、いじめの認知や対応について、丁寧に取り上げていることは間違いないことだと思う。認知件数が多いからどのようなようになったか成果がわかる指標などが必要になってくると思う。例えば、「認知件数が多いが非常に重大な事態を抑えることができる」など、今後示していければよいのではないか。

【事務局】浦安市は認知件数が多く、特に小学校低学年であるほど少し叩かれたり、いやなことを言われたりした些細な報告もあがってくる。この報告1件ずつについて先生方は聞き取りを行い、必要であれば相手方に伝えて和解ができるように努めているところである。子どもたちが先生方に伝えやすい環境をつくることで、初期の段階で対応にあたることができる。早い認知が早期の解決につながっていることを今後は発信していきたいと思う。

【委員】担任と子どもの結びつきが解決に向かっていったことがよくわかった。数値データを示す必要はないので今後も紹介していただきたい。

議題(3) 令和3年度本市におけるいじめ防止等の取組状況について、事務局から説明した。

【委員】様々な取組を行っていることがわかった。研修については配付したレジュメを示すなど、今後機会があれば示していただきたい。

【事務局】今後、研修でいただいた資料、レジュメなどを示すようにしていく。

【委員】今後、示していただくことを前提にして、何かご意見、質問はあるか。

【委員】教師の指導力向上の取組について資料の7ページに書かれている。14講座研修を開設し、174名が参加されているが、どのように参加者を募ったのか。

【事務局】基本的には希望研修であるが、一部2・3年目研修のように悉皆研修として参加していただいたものもある。174名は延べ人数となっている。

【委員】174名との参加とは、参加者が多い状況なのか。

【事務局】過去、全ての職員が1講座は受講することもあったが、現在は先生方の多忙化が叫ばれているところもあり希望研修としている。そのような中で174名が参加してくださっていることは多い状況であると捉えている。

【委員】どの講座に先生方は関心をもたれたかわかるか。

【事務局】特に関心が高かったのが特別支援教育に関する講座で40名程度参加していた。教科に関する研修は、中学校教員だと自身の該当教科のみになってしまうので人数が少なくなる傾向がある。

【教育長】今後、ただ単に開設した講座を羅列するだけでなく、いじめ問題の解消に向けてどのような位置づけで講座を開設しているのか明確にしていく必要がある。先ほど委員長が申しあげたとおり、改めて研修の内容については提示させていただく。

【委員】生徒指導で様々な案件を抱えている学校の先生方がどのような研修に参加されているか、非常に興味深いところである。

【委員】自他を尊重する心の育成の中で取り組まれているものについて、この取組を行ったことで、「このようなことができるようになった」という子どもの声が聞こえてく

ると嬉しい。また、いじめ教えてメール相談は、「先生や他の人に相談できなくて利用した」、「配付物などで告知があったから利用した」など、利用動機が見えてくると、この取組が役立っていることがよくわかると思う。この取組は、辛い思いをしている人を一人でも救えたらよいという意識で取り組んでもらいたい。

【事務局】自他を尊重する取組について、ENJOY CAPやSNS講演会の取組を終えたあとの子どもたちの声を今後、確認していきたいと思う。

【指導課長】現在、取組の途中ではあるが、いくつか子どもたちの声が届いているので紹介させていただく。

- ・自分の心、友達のことを大切にする。
- ・自分の命は大切にする。
- ・人の気持ちを大切にすることが良いと思った。

このように、自分の気持ちだけでなく、周りの人の気持ちも大切にしたいという声が届いている。

【教育長】いじめ教えてメール相談でどのような事例があったのか具体的に伝えてほしい。

【事務局】まず、学校にはなかなか相談できないという理由で、匿名による相談があった。我が子が受けていることがいじめに該当するののかという相談からはじまり、教育委員会と学校との情報共有について承諾していただいた結果、当該学年の集会で指導を行うことができたという事例があった。その他、学校にも相談はしているが、相談者の不安な気持ちが強く、メール相談を活用した例があった。この事例についても、当初から学校との情報共有を了承していただければ、教育委員会が対応について学校に助言を行いながら好転させることができた。

議題（4）本市における「いじめ」に関する事例について事務局より説明し、協議を行った。

事務局から連絡事項を伝え、閉会。

問い合わせ先 教育総務部指導課 担当 鈴木俊之  
電話 047-351-1111（内線）19216